



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



司教の手紙

「イエスの聖心」を黙想する

鹿兒島教区司教 中野裕明

教区の皆さま、お元気で  
でしょうか。今月は聖心の  
月です。そこで、今回は  
聖心の信心についてお  
話します。

先ず、「イエスの聖  
心」は信心であって教義  
ではありません。教義は  
カトリック教会の信ずべ  
き事柄を指します。信心  
とは信じている対象への  
個人的な感情です。

信心の基本には思慕の  
念があります。それは、  
丁度幼子が大好きなお母  
さん、お父さんを思慕す  
るように、理屈を超えた  
感情です。それはイエス  
さまやマリアさまや他の  
聖人方へと向かいます。

ところで、「イエスの  
聖心」を表す絵画では、  
茨がまきついた心臓が描  
かれています。

その意味は私たちのた  
めに十字架による罪を贖  
われたイエスの愛を表現  
しているわけですが、心  
臓はギリシャ語で「カル  
デア」と言い、それは  
その人の心を表してお  
り、広い意味で、イエス  
の人間の愛、さらには、  
彼の人の愛をも表してい  
る解釈できるようです。

そうすると、「わたし  
は柔和で謙遜な」イエス  
(マタイ11・29)のよう  
になりたい、と思慕する  
ことも信心業であるとも  
言えます。換言すれば、  
信心とは、信仰生活に喜  
びや熱心さや楽しみ等を  
もたらすものであると言  
えます。

さて、個人は感情的  
にイエスを思慕すること  
は苦手なので、やはり神  
学的な観点から「活ける  
水」とイエスについてお  
話します。鹿兒島カテ  
ドラル・ザビエル教会の  
一階正面玄関の左側の壁  
面に「イエスは大声で言  
われた『渇いている人は  
誰でも私の所にきて飲  
みなさい』」(ヨハネ7・  
37)という言葉が彫り込  
まれています。

このイエスの招きの言  
葉は通りがかりの人、洗  
礼を受けた人、洗礼を受  
けても教会を遠ざかって  
いる人、新型コロナウイルス  
の感染予防のため教会に  
来れなかった人など、と  
かくすべての人に対して、  
イエスの熱心な呼びかけ  
であることは確かです。  
ただ、私たちが、果たし

て自分自身「渇いてい  
る」と自覚しているかが  
問題であります。  
ところで、日本語には  
「欲求」と「欲望」とい  
う似通った言葉がありま  
す。違いをあえて言うな  
ら、「欲求」の対象が命  
に關して必要不可欠な事  
柄であるのに対して、

「欲望」は現実を超える  
幸福を望むときに用いら  
れています。前者は満た  
されることがあります  
が、「後者は制限なし」と  
いう事になります。  
ヨハネ福音書4章にイ  
エスとサマリヤの女の  
話があります。

それは、イエスがサマ  
リアの女に「水を飲ませ  
て欲しい」と頼まれると  
ころから2人の会話が始  
まります。会話の途中  
で、イエスは変なことを  
言い始めます。  
「この水を飲む者はだ  
れでもまた渇く、しか  
し、わたしが与える水を  
飲む者は決して渇かな  
い。わたしが与える水は  
その人の内に泉となり、  
永遠の命に至る水がわ  
き出る。」(ヨハネ4・13  
・14)

すると女は言います、  
「主よ、渇くことのない  
ように、また、ここに  
みに来なくてもいいよう  
に、その水をください」  
(同上15節)と。  
さて、この女は「飲む

「教会の耳  
となつて、孤  
独に苦しむ、  
また悩みを抱  
えている人の  
声を聴いてあ  
げることので  
ける」となる  
う」と198  
7年12月9日  
に始められた  
相談電話サー  
ビス「鹿兒島  
きぼう」の電  
話」が今年も  
6月からカウ  
ンセリング講  
座を開講す  
る。

6月からカウンセリング講座開講  
鹿兒島きぼうの電話

この講座  
は、相談者の  
声を傾聴するボランティア  
を養成することも目的だ  
が、専門家から職場でのス  
トレスや家庭での、また青  
少年などの心理を学ぶこと  
で「人間関係をよりよく保  
つ一助にして欲しい」とし  
て続けられている。  
6月23日から教区本部で  
から始まる講座(全20回)  
は、毎週金曜日午後7時か  
らの開講となる。  
受講できるのは20歳以上  
で、受講料は全20回で1万

第35回 カウンセリング講座 スケジュール

回	月	日	曜	講師	内容
	6	17	土	事務局(説明会)	14時・19時の2回
第1回	6	23	金	中野裕明司教	共に歩むために I
第2回	6	30	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識 I
第3回	7	7	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識 II
第4回	7	14	金	有倉巳幸先生	職場の人間関係
第5回	7	21	金	シスター澤	子どもと女性の人権について I 【公開講座】
第6回	7	28	金	有倉巳幸先生	人間関係の中のストレス
第7回	8	4	金	山口寛子先生	子どもと女性の人権について II 【公開講座】
第8回	8	25	金	石堂みお子先生	発達障害の特性とその環境調整について
第9回	9	1	金	田中大三先生	アルコール依存症について I 【公開講座】
第10回	9	8	金	田中大三先生	アルコール依存症について II 【公開講座】
第11回	9	15	金	今林俊一先生	家族の人間関係
第12回	9	22	金	今林俊一先生	青少年の心理 I
第13回	10	6	金	今林俊一先生	青少年の心理 II
第14回	10	13	金	大坪治彦先生	よい聞き手となるために I
第15回	10	20	金	大坪治彦先生	よい聞き手となるために II
第16回	10	27	金	大坪治彦先生	よい聞き手となるために III
第17回	11	10	金	大坪治彦先生	よい聞き手となるために IV
第18回	11	17	金	事務局	電話カウンセリングの実際①
第19回	11	24	金	事務局	電話カウンセリングの実際②
第20回	12	1	金	中野裕明司教	共に歩むために II 修了式・認定式
※	12	8	金	中野裕明司教	新人オリエンテーション

者は決して渇かない」  
(「欲求」と「その人の内  
に泉となり、永遠の命に  
至る水がわき出る」(欲  
望)を満たすことをイエ  
スに願っています。  
イエスは自然界の水の  
効用を前提にしながら、  
超自然界の水について言  
及しています。つまり、  
この「人の内へ至る水」  
は、永遠の命に至る水」  
とは、「ご自分を信じた  
人々が受けようとしてい  
る霊について言われた」  
(ヨハネ7・39)の申し  
た。つまり、ここで話さ

れている事柄は、聖霊に  
よる洗礼のことを言っ  
ているのです。  
最後に、イエス自身の  
「渇き」について言及し  
ます。ヨハネ福音書では  
十字架上でイエスは、  
「渇く」と言っただけで  
き取られた、とありま  
す。但しその前に、すべ  
てのことが今や成し遂げ  
られたのを知り、(ヨハ  
ネ19・28)と記されてい  
ます。つまり、イエスは  
この世の生涯の終わりに  
、天の御父から命じら  
れた人類救済の計画が十

字架での死によって、成  
就したことを確認したう  
えで、「渇く」と言われ  
たわけです。  
ご自分の死とそれに続  
く復活がなければ、聖霊  
を自分を信じる人たちに  
与えることができないこ  
と知っていたイエスにと  
って、死の間際にあつて  
も最終目的に向かうご自  
分の意志を表現している  
「渇き」と言えるのでは  
ないでしょうか。ある聖  
書注解者は、それを「自  
己譲与」と説明していま  
す。

聖書愛読運動完走者

II 旧約聖書  
教訓予言書コースII  
久松久美子修道女(純心  
聖母会鹿兒島修道院)、上  
野千穂子さん(ザビエル  
会)  
※5月16日現在

第四部 多様性の中の一致の実践に向かう

XI・多様性の中の一致を表現する諸機関

(1)教会は神の民です。信徒と位階者全員の交わりと任務の多様性を一つにまとめる代表者の機関あるいは組織が必要で、このよ

(2)典礼において ①公会議の原則…公会議は信徒に典礼にかかわることにおいて意識的、積極的、行動的な参加を呼び掛

「母なる教会は、すべての信者が、十全に、意識的かつ行動的に典礼祭儀に参加するよう導かれることを切に望んでいる。このよう

②朗読奉仕者と祭壇奉仕者に関して…信徒は男女を問わず、司教協議会の規定に従って、朗読奉仕者と祭壇奉仕者に任命されること

期、養成コースあるいは養成機関については具体的に改正されていませんが、やがて新しい規定に変わるこ

③「司祭不在の時の主日の集会祭儀」の「臨時の集会所式者」、ミサ以外の時の聖体拝領のための「聖

カトリック教会の多様性を生きる

ととくに信徒と聖職位階とのかかわりの中で⑦

鹿兒島教区司祭 永山 幸 弘

ちが集まって公会議を開催することは特別な必要性がなければ無理なこと

この集会は教皇と司教たちの位階的交わりのしるしです。教皇の首位権を認め

会にいのちを与える聖体、日本カトリック典典礼委員会「カトリック儀式書

(3)行政機構において ①世界代表司教会議（シノドス、教会法第342条

議会です。この機構は第2バチカン公会議以前からあ

「常設機関である司教協議会は国または一定の領域の司教たちの集合体である。

ありませぬ。この司教会議には通常総会と臨時総会があります。

②司教協議会（教会法第447条―459条） 主に同じ国または一定の領域司教の集合体です。

⑤教区司教評議会 当教区では「鹿兒島教区評議会」の名称のもとに2

「各小教区において、司教は司教評議会の意見を徴したうえで、適当と判断し

③教区代表者会議（いわゆる教区シノドス） この代表者会議は前述した全教会における世界代表

④教区の経済的課題については「経済問題評議会」が設置され、司

などを会員にすることによって、多様な意見が求められるからです。

⑦小教区司教評議会 「各小教区において、司教は司教評議会の意見を徴したうえで、適当と判断し

⑥司教評議会及び顧問団 この評議会は司教と司祭たちが叙階の秘跡を共有

そのために、私は教会の公的な教えを示している第2バチカン公会議の憲章に沿

任務の多様な性が存在し、すべての会員は洗礼によって同じキリスト者として

多様性は一つの目的つまり神の国を造るためにあり、そのことによって信者は全員本質的に一つになる

事実そうでした。そこで私としては、それらの要素がこれまで引きずってきた

最後に、使徒ペトロの言葉をもって終わります。 「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているの



（おわり）

# 送別会に洗礼式、そして現在の様子

## 高齢化にあっても前向きな徳之島地区教会

3月26日(日)午後6時から母国教会で、永年、徳之島信徒のため、また地域の宣教活動のためにと頑張った福崎英雄神父様の送別会を行いました。

徳之島では一時期、福崎神父様とコンビを組まれて働いてくださったいた大松正弘神父様の突然の訃報(2018年10月8日)のためにパニック状態に陥りましたが、2人の方のボランティア協力のおかげで信



洗礼式を終えて記念撮影 (復活徹夜祭)

徒の心もより強く一つになりました。

そんな中、福崎神父様は「何をどうしようか?」とあれこれ工夫を重ねられ、終身助祭を2人誕生させ、またコーラス部、レジオ・マリエを立ち上げられそれぞれの分野での活動を励ましてこられました。これは神様からの大きな恵みとなつていきます。

今年に入り婦人会長を中心に、未信者の方にもお声がけして1人で寂しい人たちが集い、祈り、一杯の味噌汁を共にする「シルバークITCHン」の集いを午前11時から午後2時まで、月に2〜3回のペースで実施しています。

このような活動ができるようになったのも福崎神父様の導きだと深く感謝しています。

この日の送別会では、信徒がそれぞれ食べ物や一品ずつ持参し、参加者が各々感謝の言葉を述べました。コーラス部の聖

父様によって行われました。新しい兄弟姉妹を迎え、新たに神様の子として愛にこたえることができるよう3人の方に豊かな祝福がありますようにと祈るばかりでした。

ポストコ神父様はと言いますと、信徒と一緒に教会に來られない方の訪問、カトリック幼稚園でのお働き、またフィリピンの信徒のための英語ミサ、コーラス部とのふれあいなど多方面で活躍してくださっています。

イモ出荷の手伝いのために來島しているインドネシアの若者たちと母国教会で食事を楽しみながら交流を深め、彼らの話を聞き、激励されていきました。神父様のお働きを見ると「愛とは言葉ではなく心だ」ということを痛切に感じました。

徳之島の教会は高齢化が進み、若者は忙しさから教会を離れている現状にありますが、心を一つにして皆さんの幸福を願う頑張り、祈りたいと思います。(報告・順 秀子)

### +KABAYAN SEKSYON+

#### Paggalugad sa Ugnayan ng Pari at Laiko

Sa paglalarawan ng papel ng laiko sa buhay at misyon ng Simbahan, binibigyan din ng Heswitang Adolfo Nicolas ang ilang mga prinsipyong gumagabay sa ugnayan ng pari at laiko.

Bawat prinsipyo ay sumasapal sa mahalagang katalusan ukol sa kalikasan ng Simbahan at inilalarawan nito kung paano magkaugnay ang kaparian sa laiko.

#### Kaunahan ng Bayan ng Diyos.

Lahat ng uri ng paglilingkod ay laan sa bayan ng Diyos; ang pakikibahagi at pakikisangkot ng laiko ay sadyang kailangan.

#### Kaunahan ng isang Pagkapari ng Lahat ng mga Mananampalataya.

Ang pinakamahalagang pagkakakilanlan ng mga tao bilang pari ay tinatangap ng lahat sa sakramento ng binyag; ang buong Katawan ni Kristo ay binubuo ng mga pari.

#### Kaunahan ng Prinsipyong Espirituwal sa Simbahan.

Ang buhay ng Simbahan ay lumalago mula sa aktibong presenya ng Espiritu; hinahandugan ng Espiritu ang Simbahan ng malawak na pagkakaiba-iba ng mga biyaya.

"Ito ang prinsipyo ng pagiging malikhain, pagiging magkaugma sa kabila ng pagkakaiba, kaisahan ng lahat ng mga mananampalatay..."

#### Kaunahan ng Pananampalataya.

Para sa Simbahan, ang kanyang mga batayang sakramento ay ang Binyag at Eukaristiya; nauuna sila sa sakramento ng orden.

Ang pari ay kailangan maging "isang mababang lingkod ng binyag" at "nasa paglilingkod sa Eukaristiya."

Laiko, Simbahan at Misyon  
(Fr.Dino)

イエス様はペトロに「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける」と語られました(マタイ16:19)。ここでの「鍵」が原語では複数形であることは以前にお話ししました(2012年2月)。

鍵に関するイエス様の一連の言葉と似た表現をイザヤの預言に見出すことができます。そこには「わたしは彼の肩に、ダビデの家の鍵を置く。彼が開けば、開ける者はなく、彼が閉じれば、閉く者はないであろう」とあります(イザヤ22:22)。因みに、聖書に於ける「鍵」は

現代のものとは違います。考古学的発見から全体の長さは鋤や鍬の半分くらいで幅が少しある木製です。そして先端部分が少し曲がり、その曲がった箇所を数

### 《康由神父の聖書教室》63

## 天国の鍵について

本の突起物が打ち付けられていました。原理は現代の鍵と同じで、その突起が鍵となっていました。当然のことながら丈夫で大きく重いものであったことから、

持ち運ぶ際には肩からぶら下げていたようです。そこから鍵をぶら下げていたことが権威の象徴ともなつたとされています。



ダビデは一人であることから、イザヤの預言での「鍵」が単数であることは当然です。面白いことに「ダビデ」という言葉は固有名詞・人名ですが「愛されて

いる者」という意味もあります。当時の人はダビデを神様から愛された人間の象徴として捉えていたのかも知れません。天の国とは愛された者が集う場所であり、すべての人に開かれています。

イエス様はペトロに天と地との繋がりと二本の鍵を与えたと考えられることもあります。実にこの地上で神様から愛されたことに気付き、その愛に応えようとする者に天上は開かれるのです。これは律法で雁字搦めになつていた古い時

代：神様の思いを騙る人間によつて人間が責められていた時代が終わりを告げ、イエス様の福音によつて人が救われる時代が始まったこと、力強い宣言でもあるのではないのでしょうか。

そしてその鍵は今もカトリック教会に委ねられているのです。バチカン市国の国旗、また教皇様の紋章に描かれた二本の鍵が意味することを考えてみたいものです。

## 会 と 催 し 6月

- 2日(金) 松森孝郎神父命日(2017年)
- 4日(日) 三位一体の主日
- 6日(火) み言葉の祈る集い・ザビエル教会・10時
- 11日(日) キリストの聖体
- ▼W・フリチエル神父命日(2016年)
- 13日(火) 泉浩二神父霊名(聖アントニオ)
- ▼鄭法鍾神父霊名(聖アントニオ)
- 16日(金) イエスのみ心
- 18日(日) 年間第11主日
- ▼カトリック教師の会・教区本部・15時
- ▼奄美の宣教司牧を考える会
- 19日(月) 三教区司祭合同黙想会・那覇教区・23日まで
- 24日(土) 洗礼者聖ヨハネの誕生
- ▼小川靖忠神父霊名(洗礼者聖ヨハネ)
- 25日(日) 年間第12主日
- ▼聖ペトロ使徒座への献金

- 28日(水) 中野アカデミー・教区本部・14時
- ▼聖ペトロ 聖パウロ使徒
- 29日(木) コンペンツス・教区本部・10時
- ▼永山幸弘神父霊名(聖ペトロ)
- ▼桃菌淳一郎助祭霊名(聖ペトロ)
- ▼小隈憲士神父霊名(聖パウロ)
- ▼アン神父霊名(聖パウロ)
- ▼貴島丈弥神父霊名(聖パウロ)
- ▼久保俊弘助祭霊名(聖パウロ)
- ▼小島芳武助祭霊名(聖パウロ)

- 【司教日程】4日教区修道女連盟、5〜9日聖カルロス神学院(フィリピン)、10〜11日種子島教会訪問、14日善き牧者会、18日奄美の宣教司牧を考える会、19〜23日三教区司祭合同黙想会(那覇)、23日カウンセリング講座、28日中野アカデミー、29日「聖ペトロと聖パウロのミサ」及びコンペンツス

- 祈りの意向
- 【祈祷の使徒会】
- 教 皇 拷問の廃止
- 日本の教会 聖霊の恵み



# 春の長崎巡礼を終えて

## 奄美大島の中学生、高校生たち

### 長崎巡礼の喜び

3月14日(火)から18日(土)まで、貴島丈弥神父様ご同行のもと奄美大島から4人の中学生が長崎巡礼に参加しました。

一行は14日のフェリーで奄美を出発。翌朝、鴨池教会とザビエル教会を訪問し、貴島神父様の運転する自動車にて佐世保市の大崎教会へ。そこでは大崎教会の主任神父様の案内で地区内を散策していると公園で遊んでいた子どもたちが「神父さまー」とうれしそうに手を振ってききました。そのことに一同感激。

夜は信徒の皆さんが食卓を設けてくださり、同年代

の生徒同士で楽しく交流する機会をいただきました。

3日目は、東長崎教会、聖コルベ記念館、旧出津救助院、黒崎教会を訪ねました。コルベ神父様の生涯やドロ神父様の設立された授産活動の場など、神父様方の布教の足跡に触れ、信仰の歴史を感じることができました。



この巡礼を通して多くの出会いがありました。特に中高生にとっては、自分たちと同じ年齢ぐらいの人たちとつながることができた喜びは大きいかと思います。巡礼の恵みに感謝し、支えてくださったお礼申し上げます。(引率保護者・最上淑子)

た一日でした。4日目は、浦上天主堂へ。聖堂内で大学・大学院の卒業証書・学位記授与式が行われていることや教会学校と掲げられた建物があることに驚くことでした。最終日は鳥栖教会でミサにあずかり帰途に就きました。

自分は現在大学に通うために長崎に住んでいます。しかし、今回の巡礼で佐世保の大崎教会や東長崎の東長崎教会など、遠方で行く機会のない教会について知り、新たな発見がたくさんありました。

今回の巡礼で出会うこと出来た人々と今後も交流を続けていきたいと思いをしました。(最上太智)

私は巡礼を通して様々なことを経験できました。大崎の人たち、東長崎、鳥栖の神父様、いろいろな人に出会い、私たちが温かく迎えてくださいました。また、教会や施設で日本のキリスト信仰に触れあうこともできました。私はこの巡礼で、イエス様を信じることで、そして人の温かみを再確認できたと感じています。この巡礼を糧として、これからの人生を歩んでいこうと思いをします。(最上太心)

3月14日〜17日までの長崎巡礼で1番印象に残っているのは、長崎県に入ってから一番最初に行った大崎教会です。そこでは、神父様が公園で遊んでいる子供たちに声をかけるとみんな寄って来るといって、奄美大島では考えられないような光景が飛び込んできました。また、漁業や水産加工業が盛んで、初めての体験が沢山ありました。新しい出会いもあり、大崎教会の友達も作る事が出来ました。長崎の教会はどれもインパクトの強い建物が多く、凄く充実した4泊5日の長崎巡礼でした。また、機会があれば行きたいと思っています。(前里一成)

巡礼を通してたくさんのお出会いがあったり、繋がりがあつたり「貴重な経験をさせていただいたな」と感じました。珍しい教会があつたり知らなかった神父さんなどを知ることが出来てよかったです。また行きたいです！(榮 桃花)

今回の長崎巡礼を通して、いろいろな教会やその歴史をたくさん見ることができて、更に視野が広がりました。行った先の教会で子供たちとも仲良くすることができて本当に楽しい巡礼になりました！(福留音巴)

僕が最初に驚いたのは、大崎教会で子供たちが多かったことです。朝ミサにも子供たちがあつていました。大崎には「エテルナワコー」という水産会社がありまして。エテルナワコーという会社の名前は神父様がつけたそうです。聞いたときはびっくりしました。「エテルナ」は永遠。「ワコー」は和光という意味だそうです。水産会社の大きないけすで魚を見たことや、大崎の子どもたちと一緒に遊んだことが楽しかったです。もう一つは、鳥栖教会で聖櫃が天井から祭壇に降りてきたことです。最初は、「何かの飾りかな」と思っていました。まさか聖櫃とは思いませんでした。ピククリしました。この巡礼でいろんな教会を訪ね、たくさんの人に出会うことができてよかったです。(最上太生)

# シドッティが伝えたレガシー展

## ～315年前の屋久島への航海を語り継ぐ～

①展示 パネル 航海日誌、シドッティの複顔像 (国立科学博物館から借用) その他貴重な資料 動画 (シドッティの生涯 他)  
期間: 5月30日(火)～6月25日(日)  
場所: 鹿児島県歴史・美術センター黎明館1Fロビー

②関連行事 (講演会) 6月10日(土) 13時～15時 黎明館2F講堂  
=宣教師シドッティの生涯と日本上陸を多角的に捉え、近代日本の幕開けの布石となった歴史的意義を語る=  
基調講演: 古居智子氏 (作家・NPO法人やくしま未来工房理事長)  
パネラー: 中野裕明司教 田村省三氏 (前尚古集成館館長)  
主催: NPO法人やくしま未来工房  
後援: (公財)屋久島環境文化財団、屋久島町、屋久島町教育委員会、南日本新聞、NHK鹿児島放送局、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、MBC南日本放送、KYT鹿児島読売テレビ、イタリア大使館、カトリック鹿児島司教区  
協力: 国立科学博物館、公益信託大成建設自然歴史環境基金  
入場料: 無 料



### 要 理

言葉は何度も聞いたことがあると思えます。でもこのことはなかなか実感できないものです。そこで人間の体について考えてみましょう。

人間の体は随意筋と不随意筋で成り立っています。随意筋とは手や足のように自分の意志で動かせる筋肉で、不随意筋とは文字通り自分が意図しなくても動く心臓や胃といった筋肉です。この二つの筋肉の割合はどれくらいだと思えますか？ 自分は思い通りに体を動かせるから随意筋の方が大きい

## 神様と私たちの関係

「神様はいつも見守ってくださっている」といって思うのではないのでしょうか。実は人間の体のほとんどは不随意筋でできていると言われています。誰も意識しなくても心臓は動き、胃や腸は消化し栄養を吸収してくれます。

ということは「自分は生きていくところではなく、自分の知らないところで働いてくれている」といって、自分自身を動かしている

神様と私たちの関係も同じです。神様は私たちが知らないところで私たちが生きていくために恵みと憐みを注いでくださっています。このことになかなか気付けないものです。また私たち

にとつて「神様にして欲しいこと」と神様がお考えになる「私たちのために必要なこと」とは違うことが少なくありません。以前にもお話したように神様は私たちが願う通りに何かをしてくださるわけではありません。私たちの生涯を通じて本当に良いこととは人間には分かりません。その「本当に良いこと」を神様はなさってください。まさに「神のはからいは限りなく生涯わたしはその中に生きる」という聖歌で歌われる通り、私たちは神様の導きの中で生かされているのです(典礼聖歌52番)。

